



# AUE News



2014年3月1日

第 78 号

編集・発行

愛知教育大学広報チーム

TEL 0566-26-2738

FAX 0566-26-2500

## 目次

- 行事予定(3月1-16日)
- トピックス
  - ・野澤博行特別教授とOB岡田実氏が版画二人展
  - ・宇納一公特別教授が退職記念「時の記憶 美術展」
  - ・「リベラル・アーツ型教育の展開」シンポジウム2013
  - ・個別学力検査等前期日程
  - ・卒業・修了展
  - お知らせ・報告・投稿
    - ・韓国の協定校光州教育大学との学生交流プログラムを実施
    - ・リポジトリ正式公開5周年インタビューを実施
    - ・「種プロジェクト」で「ニチバン巻芯ECOプロジェクト」に参加
    - ・催しもの案内

## 行事予定(3/1-15)

- 4日(火) 役員会 (13:00～ 学長室)  
評価委員会 (役員会終了次第, 学長室)  
代議員会 (16:00～ 第五会議室)
- 5日(水) 教務企画委員会 (13:30～ 第二会議室)  
学生支援委員会 (13:30～ 第五会議室)  
大学改革推進委員会 (15:30～ 第三会議室)
- 11日(火) 役員部局長会議 (13:00～ 学長室)  
評価委員会 (役員部局長会議終了後, 学長室)
- 14日(金) 教職員会議 (11:00～ 第一会議室)  
教授会 (13:30～ 第一会議室)

## トピックス

### 野澤博行特別教授とOB岡田実氏が版画二人展(2/16-23)

美術教育の野澤博行特別教授とOB岡田実さんによる「版画二人展」が、2月16日(日)～23日(日)に刈谷駅前商店街のスペースAquaで開催されました。

同展は、刈谷駅前商店街振興組合と本学の連携した「UNOセレクション」シリーズの企画。本学で35年にわたり版画を指導する野澤特別教授と、同教授の最初の卒業生(1978年)で現在



は瀬戸市の小学校教員の岡田さんの二人が、制作活動の集大成として計15点を出品しました。

野澤特別教授は銅版画9点。初期のイメージ画の作品から、矢作川などの風景をモチーフにした作品など、「ターゲットを卒業生にしたので、制作の変遷を分かるように作品を選びました」と野澤教授。モノクロームの繊細なタッチの作品に、来場者は「写真のようですが、モチーフを独自に組み合わせた独自の世界がありま

すね」と目をこらして鑑賞していました。野澤教授は展示作品を見渡しながらか、「附属岡崎中の校長をやって、それまでのイメージから風景に絵が変わりました。長野県出身の私にとって原風景とも言えます。その存在感に打ち勝つようなイメージを生み出すのはなかなか大変ですから。年を重ねて初めて見えるものがあるんですね」とこれまでの制作活動を振り返りました。



岡田さんは木版画の6点を出品。奥三河地方に伝わる伝統行事「花祭り」や、家族やペットの猫をモデルにした日常風景がモチーフで、素朴で力強いタッチの作品は見る人を魅了していました。岡田さんは「先生から展覧会のお誘いを受けて、最初はびっくりしました。学生時代は銅版画でしたが、卒業後は木版画に。ベニヤ板と彫刻刀、バレンがあれば、手仕事でできま

すから。忙しい教員の仕事をする中で、制作は気分転換です。毎年、野澤先生の版画展を見て刺激を受け、2010年からは公募展にも参加。版画は生活の一部になっています」。野澤教授については「非常に誠実な先生。在学中の卒業制作の時には、朝一番にコーヒーを出してくださって、美味しかったことが思い出に残っています。来年退職されたら作家としてやっていかれると聞いて、これからの活躍が楽しみです」と恩師にエールも贈りました。

22日(土)には、松田正久学長も会場を訪れ、両氏と談笑。卒業生も次々に来場し、恩師・先輩の作品の前で記念撮影をするなど親交を深めていました。



### 宇納一公特別教授が退職記念「時の記憶 美術展」(2/19-23)

今年度で退職する美術教育の宇納一公特別教授の退職記念「時の記憶 美術展」が、2月19日(水)～23日(日)、知立市文化会館パティオ池鯉鮒で開催されました。

宇納特別教授は、1971年に本学美術科を卒業、その後、彫刻をさらに学びたいと愛知県立芸術大学彫刻科へ進み、1975年に本学美術教室に助手として赴任、以来、多くの学生の指導をしてきました。1990年からは、文部科学省在外研究員として、世界の野外彫刻を調査。また、2000年にオープンした知立市文化会館の野外彫刻を頼まれたのを機に、学生を率いて地域と積極的にかかわるようになり、知立市と連携して学生のオブジェを街角に設置したり、刈谷市の商店街の依頼でイルミネーションを制作したりして、アートのある街づくりに貢献してきました。



記念展では宇納教授の1971年から2014年の最新作まで5点とともに、39年間の教員生活での教え子ら60人の作品も併せて、計75点が集結し、ギャラリー、ロビー、野外スペースなど会場を埋め尽くしました。「この展覧会はもともと僕がやりたかったこと。卒業生や仲間たち、教員生活でいろんな人たちとのつながりを持ったので、声を掛けて、都合のつく人には参加してもらいました」と笑顔の宇納教授。寄せられたのは、彫刻、絵画、版画、デザイン、ガラス、写真、映像など

幅広いジャンルの多彩な作品で、作家、教員、大学院生など幅広いネットワークそのまま。多くの卒業生やその家族、作品づくりで知り合った人々が来場した会場は同窓会さながらのにぎやかさでした。出品者は「人と人、





人と作品がどうつながるか、人がどうあるべきかを教えてくださいましたのが宇納先生。教員となって忙しい毎日ですが、制作があるから仕事も続けられます」「卒業して20数年経ちますが、宇納先生がみえたから今の私がある」と感謝していました。

宇納教授は「振り返れば大変なことばかりで、試行錯誤の教員生活。ものづくりを追究しただけでなく、愛教大としての在り方も自分としては考えてやってきました。そうやってきたことで、皆さんが集まってくれたことが嬉しい。今後は、地域の仲間たちと制作活動をしていきたい」と晴れやかな表情で語っていました。

## 「リベラル・アーツ型教育の展開」シンポジウム(2/19)

2月19日(水)の午後1時20分から、第一共通棟301教室で、「リベラル・アーツ型教育の展開」シンポジウム2013が開催されました。

折出健二総務担当理事による開会挨拶の後、清田雄治氏(学長補佐)と長谷川詩織氏(大学教育研究センターリベラル・アーツ教育部門研究員)が「教養科目の全体像」について説明を行いました。第1部基調講演「大学教育とリテラシー」では、京都大学教授の松下佳代氏が、〈新しい能力〉および教養教育で育成すべき能力について、一般的能力と分野別能力との区別、能力と知識の関係、「リテラシー」の基本的捉え方という観点から、具体的な事例に即して説明されました。コメントーターの竹川慎哉氏(学校教育講座講師)からは、〈新しい能力〉を前提とすることによって、社会的ニーズへの適応主義的な側面に陥るのではないかという問いが提示されました。松下氏は、能力には適応的側面と批判的側面があり、能力を身に付けつつそれに取り込まれないあり方を選びうることを述べられました。

第2部のパネルディスカッション「授業実践報告」においては、四つの学修領域のうち、「リテラシー」と「現代的課題」の担当教員が紹介を行いました。「科学リテラシー」からは大鹿聖公氏(理科教育講座准教授)が、授業「自然の事物・現象について考える」について、学生の受講前と受講後の変化に基づき、狙いと教育方法を説明されました。「現代的課題」からは、戸田茂氏(理科教育講座教授)が、授業「自然災害と防災・減災の科学」について、「災害を乗り越える市民リテラシーの確立」という狙いを中心に報告されました。ディスカッションでは、参加教員から担当授業に関連する質問が活発に出され、岩崎公弥教育担当理事が総括コメントを行いました。

最後に松田正久学長より閉会の辞が述べられ、幕を閉じました。55人が参加し、各々の立場から、教養教育の目標やそれに基づく教育方法を探求することの意義を再確認する機会になりました。(教育創造開発機構大学教育研究センター リベラル・アーツ教育部門研究員 久保田祐歌)



## 個別学力検査等前期日程(2/25、26)

2014年度入学の個別学力検査等前期が2月25日(火)、26日(水)の2日間にわたって実施され、両日で1,419人が受験しました。

25日は第一、第二共通棟を会場に、学科試験。午前8時前から受験生が次々と訪れ、入り口で受験票を職員に見せてそれぞれの試験室に向かい、試験に挑みました。26日は体育や音楽、美術などの実技試験も実施されましたが、両日も大きな混乱や事故がなく、無事に終了しました。

合格発表は3月8日(土)午後1時から講堂で行われ、大学ホームページでも掲載されます。

## 卒業・修了制作展(2/26-3/2)

美術選修・専攻、造形文化コース、大学院芸術教育専攻の卒業生・修了生による「卒業・修了制作展」が26日(水)～3月2日(日)、刈谷市美術館で開催されています。

今年のテーマは「広がり」。美術選修・専攻の美術教育、美術史、絵画、版画、彫刻、工芸の各研究室、造形文化コースの金工、陶芸、染織、ガラス、プロダクトデザインの研究室の学部生・大学院生計69人が制作した作品や論文など140点余が並べられました。



刈谷市美術館を会場とした開催は今年で3年目。関係者だけでなく市民の来場もあり、「学生さんたちの作品は楽しいものが多くて、楽しめます」との声も聞かれました。

それぞれ、学部・大学院での研究の集大成とあって、個性豊かで見応えある作品ぞろい。モデルの女性の表情豊かなテンペラ画、カバやキリンなどの動物をカラフルにポップに表現した木版画、猫の動き進化論の象徴として木彫で表した彫刻作品、小さな紙片を積み上げたペーパークラフトの明かり作品、「ゆらめき」を表現した陶芸など、学生の感性が光るユニークな作品は、来場者の目を楽しませています。

26日は松田正久学長も会場を訪れ、手鏡を出品した学生から「昨年は土台になるものを作り、今年は半年かけて集大成の作品を完成させました」と説明を受け、テーマや制作の工程を質問しながら鑑賞しました。



## お知らせ・報告・投稿

### 光州教育大学校との学生交流プログラムを実施(2/12-16)

2月12日(水)～16日(日)の日程で、光州教育大学校(韓国)のLee Jeongseon 総長、Son Jeongseon 大学院長及び学生9人が本学を訪問、学生の交流を中心に様々な交流活動を実施しました。

本学と光州教育大学校は2011年6月に学術交流協定を締結。教員交流を中心とした交流活動が積極的に行われる一方、学生交流の活性化が望まれていました。今回のプログラムは、こうした背景を受け、本学松田正久学長とLee 総長のイニシアチブの下に実現したものです。

プログラム初日の12日(水)には本学役員と教職員、ボランティア学生参加して歓迎会を実施。参加者は和やかな雰囲気の中、歓談のひとときを楽しみました。翌日からは、附属名古屋小学校



での授業見学やトヨタミュージアムの視察、本学教員による講義等を通じて日本の教育制度や歴史文化を積極的に学ぶとともに、本学学生と一緒に名古屋市内を見学するなど、大いに交流を深めた様子でした。また13日(木)には、Lee 総長に「韓国における教員養成」と題した特別講演を、学生には光州教育大学の大学紹介してもらい、韓国の教員制度や光州教育大学について知識を深める良い機会を提供いただきました。

5日間という限られた期間のプログラムでしたが、光州教育大学の学生からは「今度はぜひ、交換留学生として愛知教育大学に来たいです」といった意欲的な声が多く寄せられました。今後、光州教育大学とは学生交流の面においても大きな進展が期待されます。

(教育創造開発機構運営課 国際交流担当 宮内春菜)



### リポジトリ正式公開5周年インタビューを実施(報告)

2014年1月5日(日)に、本学の学術情報リポジトリが正式公開5周年を迎えました。日頃よりリポジトリをご支援いただいている皆様に、御礼申し上げます。附属図書館ではこれを記念して、リポジトリ掲載論文数が最多(88件)である都築繁幸理事に、インタビューを実施しました。



インタビューでは、リポジトリによる研究成果発信について、都築理事の研究分野である特別支援教育の観点からお話いただきました。その他、研究にかける熱意や図書館への要望など、幅広い内容となっております。

インタビュー内容はリポジトリのトップページからリンクしており、下記のURLで一般に公開しています。ぜひ、ご一読ください。

【正式公開5周年記念インタビュー】

<http://repository.aichi-edu.ac.jp/interview/8th/5thAnniversary.html>

(情報図書課 資料利用担当 稲葉裕美)

### 「種プロジェクト」で「ニチバン巻芯ECOプロジェクト」に参加(報告)

愛知教育大学附属図書館が実施した「『種』プロジェクト」の一環として「第4回ニチバン巻芯ECOプロジェクト『テープの巻芯を集めて緑の地球を守ろう!』」に昨年11月より参加しました。各課からも協力していただき、約3カ月間で約100個のガムテープやセロテープの巻芯を集めることができました。その結果として、このたび、ニチバン株式会社より、感謝状及び「緑の地球賞」として



花の種の詰め合わせが届きました。

集められた巻芯は、ダンボール再生とマングローブの植樹という形で地球環境保護活動に役立てられたそうです。

また、花の種の詰め合わせは次回の『種』プロジェクトに使用する予定です。ご協力いただいた皆様に感謝いたします。

(情報図書課 資料受入係長 浅岡圭吾)



## 催しもの案内

- ◆愛知教育大学書道専攻十一期生・書友会 卒展  
3月4日（火）～9日（日）9：30～17：00（最終日は16：00まで） 入場無料  
名古屋市博物館  
書道専攻11期生の卒業制作作品を中心に、教員らの賛助作品、OB協賛作品、書友会  
在學生・書道専攻3年生の作品を展示。
  
- ◆理科実験プレ教員セミナー  
中学校版：3月5日（水）～14日（金） 参加無料、要予約  
化学、生物、物理、地学など、中学校教員になる学生のための理科実験指  
導に必要な実験・観察の仕方を詳しく解説する講座。  
小学校版：3月6日（木） 参加無料、要予約  
生物、化学、物理、地学の実験・観察の小学校教員として知っておかなけ  
ればならない実践的な内容で実施。  
詳細は本学ホームページ  
URL：<http://www.aichi-edu.ac.jp/>（⇒イベント一覧を参照）  
申込み・問い合わせ：理科教育講座 岩山勉 tiwayama@aecc.aichi-edu.ac.jp
  
- ◆愛知教育大学吹奏楽団第57回定期演奏会  
3月8日（土）17：00開場 17：30開演  
安城市民会館サルビアホール  
入場料：前売り300円、当日400円、未就学児童は無料  
曲目：交響詩「禿山の一夜/M. ムソルグスキー」、交響曲第3番「オルガン付き」終楽  
章/サン＝サーンス、エルフゲンの叫び/G. ローレンスほか  
指揮：小松孝文、松山真子、山内一平  
問い合わせ：小堀萌さん TEL 090・3448・1962  
E-mail:aue\_wind\_orchestra@yahoo.co.jp
  
- ◆愛知教育大学天文台 第90回一般公開・第301回名古屋地学会例会  
3月8日（土）17：00～19：30 参加無料 申込み不要  
自然科学棟5階 地学538教室 屋上天文台  
内容：17：00～18：00 ミニ講座「私の卒業研究から」  
「星座の観測と色等級図の作成」講師：澤研究室4年 安藤智香・高城詩織  
「天体现象の流体実験」講師：同4年 若本陽介  
「宇宙の環境問題～スペースデブリ～」講師：同4年 坂倉透  
「大小マゼラン雲の軌道の研究」講師：同大学院生 内本亮介  
18：00～19：30 観望会「月と木星の観望会」、3D映像上映会「3D宇宙の旅」  
問い合わせ：理科教育講座 天文学研究室  
TEL 0566・26・2624  
E-mail:tsawa@aecc.aichi-edu.ac.jp  
<http://www.phyas.aichi-edu.ac.jp/~tenmon/>
  
- ◆第107回劇団把° 夢卒業公演  
3月15日（土）13：30～、18：00～、16日（日）10：30～、15：00～  
ナビロフト（名古屋市天白区井口2丁目902）  
入場料：前売り800円、当日1000円  
演題：「僕たちの好きだった革命」 作・鴻上尚史、演出・田邊充司  
問い合わせ：伊藤さん TEL 080・5119・3729  
<http://www.geocities.jp/gekidanpamu/info-kakumei/index.html>

◆愛知教育大学教育創造開発機構 教育臨床総合センター第4回講演会

「発達障害のある児童・生徒への支援」

3月15日（土）13：30～（受付13：00～） 参加無料、先着150人、託児先着15人  
第二共通棟421教室

プログラム：第1部・基調講演 13：30～14：30

菊池哲平氏（熊本大学教育学部准教授）「自閉症スペクトラム障害児の  
社会性発達と支援～ソーシャルブレイン研究と通常学級における実践～」

第2部・シンポジウム 15：00～16：30

指定討論者：菊池哲平氏

シンポジスト：武田正道氏（岡崎市立大門小学校校長）

豊田佳子氏（共和病院 アスペ・エルデの会）

飯塚一裕氏（愛知教育大学障害児教育講座准教授）

申込み締め切り：3月12日（水）先着150人。託児の申込みは3月7日（金）まで。

メールまたはファクスで①氏名（フリガナ）②所属③緊急連絡先（携  
帯電話番号）を明記の上、送信。

申込み：教育創造開発機構 教育臨床総合センター 大久保さん

E-mail:sinokubo@office.aichi-edu.ac.jp

Fax：0566・26・2711

◆愛知教育大学管弦楽団 第80回定期演奏会

3月16日（日） 17：45開場、18：30開演

愛知県芸術劇場コンサートホール

入場料：全席自由800円（前売り700円）

プログラム：A.L. ドヴォルザーク 交響曲第9番「新世界より」作品95

P.I. チャイコフスキー 組曲「眠れる森の美女」作品66a

A.P. ボロディン 歌劇「イーゴリ公」より 韃靼人の踊り

問い合わせ：団長・近藤さん TEL090・3411・3981

URL：<http://ameblo.jp/ae-orchestra>

## 編集後記

長年を勤められた先生方の展覧会は、会場が同窓会のように賑やかでした。「先生がいたから、今の私があります」という卒業生の言葉を何度も耳にしました。先生と教え子という関係から始まり、お互いの人生に大きな影響を与え合っていて、「先生って、いい仕事だな」としみじみ。昨今、厳しい教育界にあって「先生は大変」というイメージがあるようですが、ほかの職業にない魅力があるのも先生、と実感した展覧会訪問でした。（K）



## 投稿のお願い

学内外の出来事（教育・研究・地域連携・国際交流・学内事業など）に関するニュースの提供をお待ちしております。

メール：[kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp](mailto:kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp) 編集責任者：総務担当理事 折出 健二